



# ストレッチ クラスタ アップグレード

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [ストレッチ クラスタのアップグレードのガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [HyperFlex 補助ノードの HX データ プラットフォーム ソフトウェア バージョン \(2 ページ\)](#)
- [HX Connect を使用した HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード \(2 ページ\)](#)
- [監視 VM のアップグレード \(4 ページ\)](#)

## 概要

このセクションでは、Cisco HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレードに関連する情報を提供します。ストレッチ クラスタアップグレードを実行する手順は、通常のHyperFlexクラスタアップグレード手順と似ています。

## ストレッチ クラスタのアップグレードのガイドライン

- HX Data Platform の分割アップグレードのみがサポートされています。UCS ファームウェアのアップグレードはサポートされていません。
- 手動クラスタ ブートストラップは、3.5 より前のリリースから 3.5(1a) へのアップグレードに必要です。  
自動ブートストラップは、3.5(1a) からそれ以降のリリースへのアップグレードでサポートされています。
- 3.0.x から 3.5.x 以降のリリースにアップグレードする場合：
  - 1 個のみのノードを手動ブートストラップした場合、**[Cluster Upgrade (クラスタアップグレード)]** ページの **[Select Upgrade Type (アップグレードタイプの選択)]** セクションに **[ESXi]** チェックボックスは表示されません。ESXi アップグレードオプションは、HX データ プラットフォームをリリース 3.5.x 以降のリリースにアップグレードした後にのみ表示されます。

- すべてのノードを 3.5.x またはそれ以降のリリースに手動ブートストラップした場合、**[Cluster Upgrade (クラスタ アップグレード)]** ページの **[Select Upgrade Type (アップグレードタイプの選択)]** セクションに **[ESXi]** チェックボックスは表示されません。ただし、この時点では ESXi のアップグレードのみを実行することはできません。HX Data platform + ESXi のアップグレードを組み合わせることで実行できます。
- HyperFlex Witness ノードバージョン 1.0.2 は、3.5(1a) 以降のリリースからサポートされています。拡張クラスタを 3.5(1a) 以降のリリースにアップグレードする場合、HyperFlex Witness ノードのアップグレードは不要です。

## HyperFlex 補助ノードの HX データ プラットフォーム ソフトウェア バージョン

HyperFlex リリース	補助ノードのバージョン
4.0(2a)	1.0.8
4.0(1b)	1.0.4
4.0(1a)	1.0.4

## HX Connect を使用した HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード

HyperFlex をストレッチ クラスタ現在の HX Data Platform バージョンの 3.0(1x) 以降のリリースからアップグレードする場合は、次の手順に従ってください。



- (注) アップグレードされているノードの電源障害またはリブートによって HyperFlex パッケージの更新が中断された場合は、システムの状態に応じて問題を修正するために、コントローラ VM を再イメージ化するか、手動による介入が必要です。詳細については、Cisco TAC にお問い合わせください。

### 始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。詳細については、「[Upgrade Prerequisites](#)」を参照してください。
- [Software Download](#) から、既存のクラスタを以前のリリースからアップグレードするための最新の *Cisco HX Data Platform Upgrade Bundle* をダウンロードします。

- 「オンライン アップグレード プロセスのワークフロー」の手順 1 ～ 6 を実行します。詳細については、[オンラインアップグレードプロセスのワークフロー](#)を参照してください。
- Cisco UCS インフラストラクチャをアップグレードします。
- ブートストラップを実行して、Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードします。
- ブートストラップされたストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。
- DRS が有効な場合、VM は自動的に vMotion を持つ他のホストに移行されます。



(注) DRS が有効になっており、ノードの VM が vMotion とともに移行されない場合、ノード上のすべての VM は自動的にシャットダウンされます。詳細については、VMware のマニュアルで、vMotion を使用した移行の説明を参照してください。

**ステップ 1** HX Connect にログインします。

- ブラウザに HX ストレージ クラスタ 管理 IP アドレスを入力します。 <https://<storage-cluster-management-ip>> に移動します。
- 管理ユーザ名とパスワードを入力します。
- [ログイン (Login)] をクリックします。

**ステップ 2** ナビゲーション ペインで、[Upgrade] を選択します。

**ステップ 3** [Select Upgrade Type] ページで [HX Data Platform] を選択し、次のフィールドの値を入力します。

UI 要素	基本情報
Drag the HX file here or click to browse	「 <a href="#">Download Software - HyperFlex HX Data Platform</a> 」から、前の release.tgz を使用した既存のクラスタをアップグレードするための Cisco HyperFlex Data Platform アップグレード バンドルの最新パッケージ ファイルをアップロードします。 サンプル ファイル名の形式: <i>storfs-packages-3.5.2 a-31601. .tgz</i> .
現在のバージョン	現在の HyperFlex Data Platform のバージョンが表示されます。
Current cluster details	HyperFlex クラスタの詳細 [HyperFlex version] および [Cluster upgrade state] がリストされます。
Bundle version	アップロードされた HyperFlex Data Platform のバージョンが表示されます。

UI 要素	基本情報
(任意) [Checksum] フィールド	MD5 チェックサム の値は、アップグレード パッケージがダウンロードされた場所と同じ /tmp ディレクトリにある別個のテキスト ファイルに保管されています。  このオプションステップは、アップロードされたアップグレードパッケージ バンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

ステップ 4 vCenter クレデンシャル を入力します。

UI 要素	基本情報
[User Name] フィールド	vCenter <admin> ユーザ名を入力します。
[Admin Password] フィールド	vCenter <admin> パスワードを入力します。

ステップ 5 [Upgrade] をクリックして、クラスタ アップグレード プロセスを開始します。

ステップ 6 [Upgrade Progress] ページの [Validation Screen] に、実行中の検査の進行状況が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。アップグレードが完了したことを確認します。

## 監視 VM のアップグレード

### 始める前に

- HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード
- アップグレードされた HyperFlex ストレッチ クラスタは正常な状態である必要があります。アップグレード後にストレッチ クラスタのヘルス状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
root@StCtlVM:~# stcli cluster info | grep healthy
```

ステップ 1 SSH を使用して監視 VM にログインし、次のコマンドを実行してサービス exhibitor を停止します。

```
root@WitnessVM:~# service exhibitor stop
```

ステップ 2 /usr/share/exhibitor/ パスで使用可能な exhibitor ファイルを、exhibitor.properties ファイルを取得できるリモートマシンにコピーします。

```
scp root@<Witness-VM-IP>:/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties  
user@<Remote-Machine>:/directory/exhibitor.properties
```

ステップ 3 監視 VM からログアウトします。電源をオフにして、監視 VM の名前を WitnessVM に変更します。

(注) Ping を使用して、古い監視 VM の IP アドレスが到達不能であることを確認します。

コマンドの後に入力しないでください。

**ステップ4** 新しい監視 VM を展開し、古い監視 VM と同じ IP アドレスを設定します。

(注) IP アドレスに到達できない場合、監視 OVA の導入には /var/run/network ディレクトリ内の古いエントリが含まれている可能性があります。これらのエントリを手動で削除し、VM を再起動して、割り当てられた IP アドレスがネットワーク上で到達可能になるようにする必要があります。

VM をリブートするには、vCenter/vSphere で VM コンソールを開き、次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /var/run/network/*
reboot
```

**ステップ5** SSH を使用して新しい監視 VM にログインし、次のコマンドを実行してサービス exhibitor を停止します。

```
root@WitnessVM:~# service exhibitor stop
```

**ステップ6** Exhibitor ファイルをリモート マシン (ステップ2でコピー) から新しい監視 VM の /usr/share/exhibitor/ パスにコピーします。

```
scp /directory/exhibitor.properties root@<Witness-VM-IP>:
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
```

**ステップ7** 次のシンボリック リンクが新しい監視 VM に保持されているかどうかを確認します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:~# cd /etc/exhibitor/
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ls -al
total 8
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Sep 11 13:00 .
drwxr-xr-x 88 root root 4096 Sep 11 12:55 ..
lrwxrwxrwx 1 root root 41 Sep 11 13:00 exhibitor.properties
lrwxrwxrwx 1 root root 37 Jul 24 16:49 log4j.properties
```

シンボリック リンクが使用できない場合は、次のコマンドを実行します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ln -s /usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
exhibitor.properties
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ln -s /usr/share/exhibitor/log4j.properties
log4j.properties
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ls -al
total 8
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Sep 11 13:00 .
drwxr-xr-x 88 root root 4096 Sep 11 12:55 ..
lrwxrwxrwx 1 root root 41 Sep 11 13:00 exhibitor.properties ->
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
lrwxrwxrwx 1 root root 37 Jul 24 16:49 log4j.properties -> /usr/share/exhibitor/log4j.properties
```

**ステップ8** 次のコマンドを実行して、service exhibitor を起動します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:~# service exhibitor start
exhibitor start/running, process <ID>
```

